

## 令和5年度

### 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

#### (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

### 成果報告書

団 体 名	川崎市文化財団グループ	
施 設 名	川崎市アートセンター	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	4,600	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,600 (千円)

# 1. 事業概要

## (3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	市民劇団・劇団わが町年間活動	令和5年4月 ～令和6年1月	① オーディション ② 事前ワークショップ、勉強会 ③ フィールドワーク ④ 公演上演 演目：しんゆりシアター劇団わが町第13回公演『あしものいずみ』2023～陸軍登戸研究所をめぐる物語～ (作：萩坂心一(劇団わが町)、潤色・演出：ふじたあさや) ⑤ 面談、振り返り会	目標値	入場者： 723、参加者：50
		川崎市アートセンター 他		実績値	入場者： 878、参加者49
2	夏休みワークショップフェスティバル	令和5年7月24日 ～8月6日	① ミュージカル体験「舞台でつながれ♪」 ② ことばであそぼう！「ことばはオモチャ！」	目標値	入場者： 180、参加者：80
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	入場者： 137、参加者66
3	しんゆりアウトリーチ	令和5年4、6、8月 令和6年1月	① しんゆりアウトリーチ in カリタス小学校 コミュニケーションワークショップ ② しんゆりアウトリーチ in 桐光学園 新入生コミュニケーションワークショップ ③ 新演劇部員で創る！合同ワークショップ ④ アフターアウトリーチ in 高津高校 ⑤ しんゆりアウトリーチ in 東生田小学校 学校でげきあそび！ 上演演目：Platanus『コジのはね』	目標値	130
		桐光、カリタス学園 他		実績値	502
4	川崎市アートセンター小劇場×映像館コラボレーション企画 Vol.6 「語る映画—奈々福・太福浪曲二人会」	令和6年2月17日	演目①『男はつらいよ 寅次郎相合い傘』(第15作) 山田洋次監督・松竹作品 原作 出演：浪曲師：玉川太福、曲師：玉川鈴	目標値	138
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場	演目②『浪曲・平成狸合戦ぽんぽこ』 高畑勲監督・スタジオジブリ作品 原作 出演：浪曲師：玉川奈々福、曲師：広沢美舟 ★浪曲師2名による「創作浪曲」に関するアフタートークを実施。	実績値	126

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>●川崎市アートセンターのミッション</p> <p>「文化芸術によるまちづくりの拠点として、一層の進化・深化を目指す」</p> <p>「文化芸術を通して、新しい価値観や人々との出会いの場として、地域住民と文化芸術、地域住民同志をつなぐ」</p> <p>●川崎市アートセンターのビジョン</p> <p>① 地域や時代のニーズを鑑み、地域とつながる「開かれた劇場」となる</p> <p>＜普及啓発事業-1、2、3、4＞</p> <p>② 様々なアプローチで文化芸術に出会う機会を提供し、地域の文化芸術の裾野を広げる</p> <p>＜普及啓発事業-1、2、3＞</p> <p>③ 地域の未来を見据え、次世代の文化芸術愛好者を創り、育てる</p> <p>＜普及啓発事業-1、2、3、4＞</p> <p>④ 継続的な幅広い事業展開による「劇場の色付け」を進め、特徴ある劇場に進化する</p> <p>＜普及啓発事業-1、4＞</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなり、その影響による事業の中止や縮小をすることなく予定通りに主催事業を実施しました。とくにアウトリーチ＜普及啓発事業-3＞では学校等の対応の変化に伴い、実施機会の増加、参加者の増加がみられました。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>【自己評価】継続して認められる。</p> <p>●文化的意義</p> <p>「陸軍登戸研究所」という地域性の高い題材を扱った市民劇の上演と事前学習などの活動は、市民劇団員が地域の歴史に触れるだけでなく、幅広い世代がともに戦争の加害も含めて学ぶ機会となりました。さらに、「史実を上演する市民劇団の活動」を市民劇として上演するという三重構造の戯曲は非常に評価が高く、演劇専門紙でも採り上げてもらうなどの公演としても高い成果を残すことができました。＜普及啓発事業-1＞</p> <p>「映画作品を浪曲で楽しむ」という取り組みは、幅広い世代に馴染みがある作品であったこと、出演者の魅力あふれるトークにより、普段、触れる機会が少ない伝統芸能「浪曲」と出会う貴重な機会を創出しました。＜普及啓発事業-4＞</p> <p>●社会的意義</p> <p>コロナ禍で「人と触れ合えない、十分なコミュニケーションがとれない」「マスクありの日常生活で自己表現が苦手」という大きな影響を受けた児童・青少年を中心に、ワークショップなど演劇体験によって「他者を思い、想像する」「自己表現に挑戦する」という機会を提供することができました。＜普及啓発事業-1, 2, 3＞</p> <p>●経済的意義</p> <p>今年初めて取り組んだ当日配布パンフレットの小口広告協賛は反響があり、市民劇団を応援するという地域の声をいただくことができました。＜普及啓発事業-1＞</p> <p>川崎市以外からの来場者は全事業平均 39.2%（前年比 2.19%減）となり、魅力ある事業の企画立案と計画的宣伝活動により地域への劇場の周知と一層の地域活性化を目指します。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

【自己評価】一部達成できませんでした。

新型コロナウイルスの影響はかなり減少しましたが、劇場・稽古場での安心安全な環境づくりは継続し、事業は予定通り実施することができました。

アウトリーチ参加者の増加については、受け入れ先（学校）のガイドラインの見直しや協力体制の整備の影響が大きく、結果的に多くの事業を実施することができました。〈普及啓発事業-3〉

また、〈普及啓発事業-4〉に関しては、出演者の都合により夜公演での実施となったことで集客が伸びなかったこと、さらに年末年始をはさむ時期の広報計画の準備不足が要因と考えており、事業ごとの丁寧なスケジュールリングの見直しに努めたいと考えます。

#### 1. 目標：劇団わが町公演の質の向上、観客満足度を高める…〈普及啓発事業-1〉

結果：達成しました。

- 過去3年間の公演の実績をもとに、入場率 85%、アンケート回収率 60%、作品満足度 95%の目標を設定。  
→入場者数：878名（入場率：92.9%）、アンケート枚数：650枚（回収率：74.0%）、作品満足度：87.4%  
作品満足度は95%を超えることは出来ませんでした。やや不満、不満の回答は0.1%でした。  
（大満足：457名、満足、111名、普通、12名、やや不満1名、不満0名、未回答69名）

#### 2. 目標：劇団わが町劇団員の活動による文化芸術に関する意識や活動の向上…〈普及啓発事業-1〉

結果：達成しました。

- 定期的に実施している劇団員アンケート、面談をもとにさらに長期的に見ていく。  
→劇団員49名中、47名の個人面談を実施、48名が継続参加を希望しました。  
劇団員アンケートによると（複数回答）「芸術鑑賞機会が増えた：54.3%」「新しい習い事を始めた（ボイストレーニング、朗読など）：17.4%」「友達が増えた：10.9%」「舞台の裏側・スタッフワークも見ることがようになった：9.7%」「劇団活動を経て、プライベートでも変わった（言葉の選び方、仲間づくり、芝居のアイデア探し）：6.6%」などの日常生活での変化を挙げています。

#### 3. 目標：ワークショップ、アウトリーチ活動の件数、参加者の増加…〈普及啓発事業-2, 3〉

結果：ワークショップ参加者は達成できませんでした。昨年度を超えることができました。アウトリーチは達成しました。

- 過去3年間の実績をもとに、ワークショップ参加者80名とアウトリーチ参加者130名の目標地値を設定。  
→ワークショップ参加者：66名（昨年度：54名）、アウトリーチ参加者：502名（昨年度188名）

#### 4. 目標：コラボレーション企画を通じた新規顧客獲得数の増加…〈普及啓発事業-4〉

結果：達成できませんでした。

- 過去3回の実績を元に入場率 85%、アンケート回収率 50%、「初めて小劇場に来た」回答 55%の目標値を設定。  
→入場者数：126名（入場率：70.4%）、アンケート枚数：59枚（回収率：46.8%）、「初めて小劇場に来た」回答：37.3%

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【自己評価】概ね達成できました。

令和5年度は全事業を予定通りに実施することができました。

アウトリーチ活動<普及啓発事業-3>では、参加人数を大幅に伸ばすことができました。申請書提出段階から増えた活動もありましたが、劇場から飛び出し、文化芸術との出会いを届けるという当初の目的から外れることなく、適切な予算管理を行い、より有意義な事業を行うことができました。

■参考 川崎市アートセンター 来場者数

(単位：人)

	小劇場 (貸館含む)	映像館	施設合計
平成30年度	23,331	61,157	84,468
平成31年度※	21,518	58,837	80,355
令和2年度※	4,127	30,347	34,474
令和3年度※	13,626	36,503	50,129
令和4年度	17,457	41,023	58,480
令和5年度	22,204	45,826	68,030

※平成31年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受けています

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【自己評価】達成できました。

収入は予算比115%超えを達成しました。これは<普及啓発事業-1>のチケット収入増加と新規取り組みである当日配布パンフレットへの小口広告協賛によるところが大きく、また<普及啓発事業-3>の学校側の負担金によるものです。

支出につきましては、それぞれのスタッフの協力のもと、無駄のない執行が行われたと考えます。

<普及啓発事業-3>でのアウトリーチ実施数が増加し、講師料などの支出増がありましたが、全体のバランスを見ながら適切な予算管理ができました。

■参考 普及啓発事業予算(申請時)に対する決算比率

	収入	支出
普及啓発事業	115.22%	85.89%

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【自己評価】達成できました。

川崎市アートセンターがある川崎市麻生区は地域住民の強力な後押しを受け、昭和 57 年の麻生区誕生当初より、「芸術によるまちづくり」を推進しています。それを背景に当館は地域の文化芸術の拠点を目指して平成 19 年に開館しました。文化芸術に親しむ高齢者が多いという地域性をふまえつつ、次世代に文化芸術の担い手を育むことも目指して事業をおこなっています。

#### ■地域に根差した企画を通して、地域と人をつなぐ

戦時中、川崎北部にあった陸軍登戸研究所をめぐる、1980 年代に起こった川崎市と当時の疎開先であった長野県駒ケ根市の高校生による「登戸研究所掘り起こし運動」を題材にした市民劇団・劇団わが町公演では、事業参加者・観客の幅広い世代が、地域の歴史を知る機会となりました。さらに公演に向けた事前学習では戦争体験者の話を聞いたり、駒ケ根で活動される方々と交流することで、地域と作品世界をより深める活動をおこないました。〈普及啓発事業-1〉

なお、この事業は、市民の戦争加害史への取り組みとして新聞でも採り上げられ、演劇作品としても演劇専門紙で「劇中劇として、手探りの稽古を通じて物語を展開させていく構造が巧みだ。アマチュアを使って舞台を立ち上げる際の有効な手法として参考となる」（「テアトロ 3 月号」今月選んだベストスリー：河野孝氏）と高い評価につながりました。

#### ■演劇体験の可能性

演劇を鑑賞するのではなく、体験する機会の提供は、演劇をツールとし、相互理解やコミュニケーションの深化を促します。さらに体を動かす、大きな声をだすことなどもコロナ禍で自由に活動できなくなっていた児童・青少年にとって貴重なものとなりました。〈普及啓発事業-2〉

また、今年度初めておこなった支援学級でのアウトリーチでは、保護者も一緒に参加。小作品の鑑賞にとどまらず、サプライズで教室ごと作品世界に没入できる装飾をおこない、作品内の音楽や小道具を用いた遊びの時間を設けるなど、観客の状況に特化した内容で実施することができました。普段劇場に来る機会を持ちにくい児童・保護者に安心できる学校という環境のなかで楽しい演劇体験を提供できました。〈普及啓発事業-3〉

#### ■新しい価値観の提案

地域のニーズに応えるだけでなく、「新しい文化芸術との出会いの提案」を発信することは、地域の文化芸術拠点の役割と考え、「小劇場×映像館コラボレーション企画」を企画し、実演芸術と映画双方の観客、また地域外からの観客の集客にもつながり、地域や劇場の周知につなげることができました。〈普及啓発事業-4〉

助成対象外でも海外児童劇の招へい公演（親子で楽しむ夏時間 2023「カラフルパズル」「パレイドリア」）、当劇場プロデュース公演（しんゆりシアター「女学者たち」/作：モリエール、演出：五戸真理枝）も同様な効果をもたらす事業となりました。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【自己評価】概ね認められます。

鑑賞事業だけでなく、体験型事業も多く実施しているため、幅広い世代の地域住民を対象としています。鑑賞事業の観客アンケート〈満足・大満足〉の平均 89.56%、参加体験事業〈また参加したい、絶対参加したい〉の平均 86.73%と高く、質の高い機会提供ができていると考えます。

また対象事業ではありませんが、地域文化団体の情報交換機会である「あさお文化交流カフェ」の会場提供、地域の芸術祭や映画祭の実施会場として、ハードとして施設を活用することも文化芸術の創造発信拠点として、地域のネットワークの構築の一助となっています。

### ■市民劇団の可能性、児童・青少年の活躍、同世代への発信

2012年より継続している市民劇団活動〈普及啓発事業-1〉は、演劇という創造活動を通し、他者への思いやりや想像力をもった人間形成の一助となっています。また異年齢集団として、学校や職場、家庭と異なるサードプレイスとしての地域の居場所という役割も果たしています。

現在、小学生から20代以下が40.3%を占め、劇団活動の主軸を担うところまで成長してきました。彼らが事業を通して、地域の題材、戦争・平和という重要なテーマに現在の問題として向き合い、それを同世代の観客に発信することは大きな意義があります。観客にとってもテーマを等身大の自分事として捉える機会となりました。

### ■未来に目を向けた、地域とのつながり

児童・青少年中心に文化芸術に出会う機会の創出となるワークショップ、アウトリーチ事業〈普及啓発事業-2, 3〉は演劇を「参加・体験」することで、日常生活に活かすことができる、演劇のコミュニケーションツールとしての可能性を示すこととなりました。

とくに令和5年度は、公立小学校支援学級でのアウトリーチを初めて実施。様々な状況によって、劇場に行くということがいかに難しいかについてスタッフ一同が実感し、この事業の必要性を改めて共有することができました。

### ■地域のニーズを見据えて

川崎市の中でも当館のある麻生区は高齢者人口が最も多い地域です。川崎市による「芸術によるまちづくり」のなかで文化芸術に親しむ高齢者も多く、鑑賞だけでなく、ボランティアとして地域の文化芸術を支える方もいらっしゃいます。

令和5年度の市民劇団・劇団わが町で扱った「陸軍登戸研究所と戦争加害の問題」〈普及啓発事業-1〉、伝統芸能・浪曲で映画の名作を楽しむ企画〈普及啓発事業-4〉はこのニーズに応えることができました。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【自己評価】認められる

川崎市アートセンターは平成 19 年の開館以来、指定管理制度（5 年契約）で運営されており、現在第 4 期 3 年目です。運営する川崎市文化財団グループは、（公財）川崎市文化財団、日本映画大学、昭和音楽大学グループ（学校法人東成学園・㈱プレルーディオ）により構成されており、第 2 期（平成 24 年）より指名を受けています。川崎市文化振興条例と文化振興計画に基づいた「川崎市アートセンターの基本方針」を軸に、地域や公立文化施設をめぐる情勢を鑑み、劇場のミッション・ビジョンのブラッシュアップを継続的に図っています。

#### ■経営戦略

寄付金や広告協賛の獲得は長年の当館の課題です。そのなかで、令和 5 年度に初めて、市民劇団公演＜普及啓発事業-1＞への当日配布パンフレットへの小口広告協賛の募集を行い、市民の芸術活動を応援するという趣旨に賛同していただくことができました。今後は他の事業でも実施し、当館をより身近な存在として捉え、活動を見守ってもらえる地域の応援団を増やしていきたいと考えます。

#### ■アンケート分析、対応

観客アンケート、ワークショップ・アウトリーチ参加者アンケート、施設来場者アンケートを取り、地域住民のニーズを分析、いただいた意見は運営のブラッシュアップに役立てています。特に鑑賞型事業の観客アンケートは平均 42.1%の回収率となっており、十分なお意見吸い上げにつながっています。また、緊急性の高いご意見については運営会議で共有し、迅速な対応を目指しています。

#### ■職員人事、人材養成（採択事業外の取り組み含む）

公立文化施設職員としての意識改革、スキルアップは重要な課題です。劇場技術・舞台制作などの専門性を高める研修だけでなく、接遇や救急救命なども含め、それぞれの職員の経験年数に応じた研修機会を継続的に提供することが重要と考えます。また、各種統括団体の会議や芸術祭などの積極的な参加・視察など外部の連携にも取り組みます。

#### ■地域連携（採択事業外の取り組み含む）

地域の芸術・文化団体との情報共有、意見交換の場となっている「麻生文化交流カフェ」を定期的に当館のフリースペースを提供し開催しています。

また、全事業を通して、公演実施時の運営には地域のアートボランティアが参加、レセプション対応を劇場スタッフと一緒に、お客様をお迎えしています。